

2009年号

青峰同窓会会報



白子の海

会長挨拶

青峰同窓会会長
 小手川 智(42C卒)



『同窓会の発展を願って』

同窓会会員の皆様にはお変わりなくご健勝のこととお慶び申し上げます。この1年を振り返りますと、激動、激変の1年でした。昨年9月にリーマンショックに端を発した世界同時不況は今日なお続いており景気の回復には時間がかかるようです。今年4月には突然、新型インフルエンザが北米で発生し日本でもパニック状態に陥る様相でした。今にも世界中に感染が広がり、やがてあつという間に世界で膨大な数の人々を死に至らしめるとの情報も流れ、行事の中止や出張等対外活動の自粛が広がりました。過激な報道は下火になりましたが今秋、大流行するとの情報が流れています。政治では、米国において史上初の黒人大統領が誕生しました。わが国においても先の衆院選で自民党が大敗し、民社党が政権を担うという大変革が起きました。これまでの時代と違って何もかもが劇的に動き、変化していくように感じます。時(情報)の流れが非常に早く、世界も大変狭く

なったと思えます。同窓会員の皆様におかれましてはこの困難な時を乗り越えていただきたいと念じております。

話は変わりますが、最近クラス会や地域同窓会、クラブ同窓会が多く開催されていると聞いており大変うれしく思っています。反面、開催の案内を発送しても返送されることも多くあると聞いております。これからの同窓会活動を活発していくためには、クラスやクラブ単位での連絡網をきっちり作っておく必要があると思います。

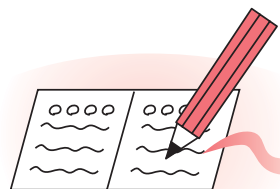
個人情報保護法の施行などがあって連絡網が作りにくいこともありますので同窓会でも何かの方策を立てる必要があると考えます。

母校では創立50周年記念にむけて準備を始めたと聞いております。改めてご案内させていただきます。

最後になりましたが同窓会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げますとともに同窓会に対しまして今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

contents

会長挨拶…………… 1	学科状況…………… 9
卒業生便り…………… 2	退職教職員…………… 14
陸上部OB高専大会応援記 伊藤豊嗣	■横山定晴 教員
43Eクラス会 成田吉重・神谷文夫・小林伸生	■山中 保 職員
45Eクラス会 十津憲司	資料提供依頼…………… 15
旭化成ケミカルズOB会 藤井芳則	SHTN便り…………… 16



卒業生便り

東海高専大会に陸上OB・OG 20数名が応援！

伊藤豊嗣(42M卒)

第47回東海地区国立高等専門学校体育大会が7月4日・5日、鈴鹿の主管校で行われ、陸上競技は鈴鹿石垣池公園で開催されました。

わが陸上部は第3回大会で総合優勝して以来豊田と競い合ってきたが、最近では岐阜が強くなって三つ巴の様相を呈している。一方、個人種目では勝田恩師の



都合により写真には写っていない人
 田中治尋 ⑥ 石垣進一 ②④
 小出順子 ②⑦ 伴 茂昭 ⑫
 藤井 理 ⑫④

○に数字は入学期

お孫さんである衛藤 昂(外カ)君が、走り高跳びで昨年来よりインターハイやジュニア大会で目覚ましい活躍をされており、鈴鹿で行われるこの大会にみんなで応援に駆けつけようと連絡しあい、初日の4日に、東は千葉県や横浜から、西は兵庫・大阪・京都・滋賀など各地から20名もの卒業生が集まってくれました。(翌日にはOGの小出順子さんなど、平成卒業の数名が来てくれたようです。)

スタンドではそれぞれ久しぶりの再会を楽しんでいましたが、中でも昨年度定年を迎えた3期生の吉川精治君、島田博司君、国分勉君の三名は親密に現況やこれからの生活などについて話し合っていた模様。

注目の走り高跳びの衛藤君は、2m05、10を1回で難なくクリアし、高専記録の2m17にバーを上げたが残念ながら更新することは出来なかった。近いうちに更新してくれるものと確信しています。

競技終了後は、有志だけで白子駅前のおすし屋さんに会場を移しての懇親会。久々に現役時代のエピソードを肴に楽しい時を過ごすことができました。

現役の方々には宮崎での全国大会での健闘を、OBの皆様には健康とご活躍を期待しています。

【応援雑感】

半世紀という時の経過を実感!!

ここまではニュースとして、これからは少し感想を書かせていただきます。

久しぶりに競技を見ることになって、年月の経過をしみじみと感じさせられたというのが率直な感想。

まず第一に、高専陸上競技のレベル向上ぶりにびっ

われらが「43E」クラス会

成田吉重 (43E卒)

2期生「43E」クラス会が8年ぶりに開催されましたので、ご報告いたします。卒業から41年、還暦を越えたのを好機に30人が集まりました。5月23日の午後に母校を見学、そのあと、湯ノ山温泉で懇親会、翌日はゴルフや昼食会、と盛りだくさんのクラス会でした。また、折よく春の叙勲の栄に浴された恩師、水谷先生を代表がお祝いに訪問するというイベントがありました。(別掲の入学当時の様子を綴った「コラム①」と、懇親会で発案され開始されたホームページの紹介「コラム②」を併せてお読み下さい)

まずは足の向くまま校内を一巡しましたが、専攻科や増設学科の建屋そして図書館や情報処理センターが建ち、また、体育館がふたつになり、青峰寮が女子寮を含めて

くりしました。5期生に本郷君という高専ではスーパースターの短距離選手がいたが、彼の記録がプログラムに載っていない。更新されていたのです。他の種目をみてもインターハイ・インカレの記録と遜色の無いレベルにまで到達してきていることです。今思うに、私たちの時代は体育祭の延長線上だったな…という感じ。

二点目は競技環境の技術的進歩でした。この石垣池運動場でも全天候グラウンドになり、タイム計測は電子計測、跳躍や投擲の測定にもメジャーは使わなくなっていました。本格的な競技大会の雰囲気がありました。

三点目は選手の動きをみて、自分の身体能力の劣化を改めて認識したこと。グラウンドで競技をしている若人の姿は実にきれいでした。「走るってことはこういう姿を言うんだよ!」といわれているように感じました。私は2007年の本誌に掲載したとおり定年後はランニングで楽しんでいるのだが、私の行っているのは「本当にランニング…?」と疑わざるを得ません。確かにランニングのポーズはとっているものの脚は引きずるようにしか動いていませんし、選手のそれと比べると余りにもスケールが違う。道路の縁石ですらハードルの高さに感じているのに、三段跳びのあの跳ね方は…、しかし俺もあのように跳んでいた時があったのだ…!と思うと、「47年、ほぼ半世紀の年月の経過は現実なんだ!」ということを痛切に感じさせられた応援でした。嘆いていても前には進みません。残っている能力を最大限発揮できるように、これからお互い努力していきましょう!



と凛とした女性剣士が正座で応対してくれました。突然現れた40年前の浦島太郎よろしく部員たちを驚かせる結果となりましたが、「修道館」にも「志誠館」にも、壁の周りに歴史を刻む入賞の記録が所狭しと掲げられ、文武に力を入れてきた伝統を改めて認識させられました。

その日の夕刻、御在所岳を望む湯ノ山温泉の老舗旅館「寿亭」に総勢30人が集まりました。温泉でくつろいだ後、大広間で懇親会。あらかじめ全員の「略歴と還暦所感」を配布してもらっていましたが、8年ぶりの人、20年ぶりの人、中には40年ぶりの再会という人もあって、お互いを確かめ合う挨拶しきり。外見は皆さん年相応に変わっていても、会話の進むうちに昔の面影が甦ってきます。宴がすすむと、何人かがマイクを握って近況報告をおこない、途中から誰かが「吾亦紅」を歌いだしたのをきっかけにカラオケに変わり、懐かしの歌が響き渡りました。2次会では、車座になって酒を交わしながら互いの来し方、行く末を話し合うなど、夜が白むまで久方ぶりの邂逅を楽しみました。

明けて翌日は、ゴルフ参加組の6名が早々に三重CCへ。曇り空から晴れ上がり、絶好のゴルフ日和となって日頃の実力を発揮、若干のお遊びも加えて盛り上がったようです。また、前夜の懇親で話し足りない仲間同士は、四日市郊外の落ち着いた「祇園茶寮」でゆったりとした昼食会を楽しみ、三々五々帰路につきました。

ここで、われらが「43E」のプロフィールを少し紹介しておきます。昭和43年に42名が卒業（入学時44名）、多くは電機・機械を中心とした大手製造業に就職し、コ

ンピュータ、通信機、産業機器、自動車などの成長産業を引張ってきた歴戦の兵といえましょうか。米国、欧州、中国・アジアと海外で活躍した人も多く、今もタイやサウジで活躍中の現役がいます。現在およそ4割が関東、6割が中部・関西に在住。定年後、継続して働く人、新たな仕事に就いた人、あるいはスポーツや趣味にこそしむ人あり、まだまだ頑張る団塊世代です。

一方で、かなり違った道を行く人もいます。当時はまだ大学編入の制度がなく、大学を受けなおして進学した人が4人います。数学を志し大学教授となった俊才は、おそらく高専第1号の理学博士でしょう。文系に転じて銀行という異分野で活躍中の人もいます。また、自然に帰れをモットーにした幼稚園経営、伝統工芸に新技術を取り込んだ提灯の製造、実務経験を生かし実践力養成にこだわったパソコン教室を経営など、自営業を営む人は多士済々です。

クラス会の企画中に、学級担任で数学を教えていただいた恩師の水谷豊先生（鈴鹿高専名誉教授）が叙勲の栄に浴されるとの朗報が舞い込みました。我々にとって大変喜ばしく、またとない好機となり、代表が先生宅を訪問しました。瑞宝小綬章受章のお祝いを述べ、心ばかりのお祝いの品をお渡しました。ご自身でやっておられた屋敷内の果樹の手入れや草取りを、今ではヘルパーさんに頼んでおられるそうですが、物忘れが激しくなるとおっしゃられるものの、昔と変わらぬユーモアたっぷりのお話しぶりは少しも変わっておられませんでした。

また、43Mをご担任で入学以来英語の授業でお世話になった野村先生からも暖かいメッセージをお寄せいただきました。メッセージは W. Shakespeare の All's Well that Ends Well! (終りよければすべてよし) で結ばれていました。人生必ずしも楽しいことばかりではないが、決して諦めないで、最後によかったと思えばそれがいい、という意味合いのようですが、考えてみればなかなか厳しいお言葉を頂いたものと改めて襟を正す思いです。

とりわけ今回の「43E」クラス会は、寝食を共にしたもの同士のよしみを改めて認識し、有意義に後半生を過そうと互いの絆を確かめ合う最良の1泊2日となりました。



■写真①：管理棟 [1年生]

きく育つのは当然のことですが、我々のように緑に乏しい殺風景な校内風景しか記憶にない卒業生にとっては眼を見張るような光景なのです。我々が在学していたときの学校の様子はどうか、当時の写真が少し保存してありましたので、いくつかを紹介してみようと思います。

写真①は我々が1年生の時の管理棟です。管理棟前の噴水もありませんし、一般科目棟はまだ工事中だったことが分かります。授業は電通学園（今のNTT鈴鹿研修センター）にある格納庫の中に作られた教室で行いました。この格納庫が今でも残っているのは驚きです。格納庫の前の滑走路は通学路になっていました。管理棟の西側は広い空き地になっていて、学生実験で接地抵抗測定を行った時は、このあたりの古い舗装面に穴を掘って電極を打ち込んだと記憶しています。

写真②は1年生の時の運動会でのバスケットボールの試合の様子です。運動会の種目は陸上、卓球、バレーボール、バスケットボール、ソフトボールの他に仮装行列（「娯楽」と名付けられていました）も種目の一つでした。体育館や野球場はおろかグラウンドもできていなかったため、バレー、バスケ、卓球は格納庫の中で行い、陸上、ソフトは白子中学校の校庭を借りて行いました。ちなみに、この運動会は2年生（つまり1期生）と我々1年生、各M、E、Cの6クラス対抗で行われ、我が1Eクラスは卓球（優勝）、陸上、バレーで健闘し、

■写真④：青峰寮から校舎を臨む [3年生]



■写真②：運動会 [1年生]



■写真③：卓球のエース、K君 [1年生]

堂々の総合2位になっています。写真③は卓球のエース、K君の勇姿です。

写真④は3年生の頃、グラウンドに続いて体育館ができた頃だと思いますが、青峰寮側から校舎側を見た写真です。左に見えるのが第2青峰寮と当時の食堂です。ずいぶん荒涼とした眺めですが、これが我々の見慣れた風景でした。この後、第2青峰寮の北側（今の青峰寮A）に和同館という合宿所のような平屋の建物が建てられました。

写真⑤は電通学園側から見た第1青峰寮です。私はこの第1青峰寮と第2青峰寮で5年間を過ごしました。なお、我々が入学したときにはまだ青峰寮が完成しておらず、入寮を希望した者は千代崎駅近くの岸岡山に

コラム①

「創立当時の思い出」

神谷文夫（43E卒）

卒業後に一度も母校を訪れたことがなく、今回のクラス会を機に41年ぶりに校舎を再び見たという人も何

人かいたようです。そうした人が校内に入ってます驚くのは樹木の大きさでしょう。40年も経てば樹木が大



■写真⑤：第1青峰寮 [3年生]

あった「青年の家」という青少年向けの宿泊施設に寄宿しました(写真⑥)。1年生の秋に青峰寮が完成するまでの約半年間、この「青年の家」から歩いて通学したのでした。

以上のように、我々が入学した時には「校舎はまだ完成していなかった」とも言える訳ですが、先輩(1期生しかいませんが)からは「お前たちは恵まれている」とよく言われたものでした。我々もさほど待遇が悪いとは思っていませんでした。私などは、中学校の校舎は木造だったので一般科棟が完成して真



■写真⑥：青年の家 [1年生]

新しい教室に入ったときは感激したものです。

当時は、白子駅前を抜けて学校に向かうと彼方に管理棟のほぼ全体が見通せました。途中には田畑と右手の電通学園しかなかったからです。校歌を作詞された山口誓子先生が学校に来られて講演されたことがありましたが、先生は鈴鹿の第一印象として「この辺りの景色は2本の線で表すことができる」と話されました。つまり、どこを眺めても平らで、地平線(?)と遠景の鈴鹿山系の2本の線で描けると言われたわけですが、これは今でもあまり変わらないかも知れませんね。

ムページで新しい閲覧者を増やす必要も無くデザインより機能の重視です。

■パスワードの設定

学生時代同様仲間が何の遠慮もなく気楽に話せる雰囲気にする為、パスワードを設定し目的を仲間だけの情報交換に絞りました。ホームページのタイトルも「鈴鹿43E談話室」です。自由に閲覧して頂く事はできませんのでご了承ください。

■メールによる投稿自動通知機能の設定

掲示板に投稿された記事は必ず見てもらいたいという思いで、自動で全員に投稿連絡が送られる様にしています。

■メールリストの作成

メールリストにより全員のアドレスを一元管理しています。各自にアドレス変更があっても管理者への連絡のみでメールを全員に洩れなく送る事ができます。

時は流れ卒業し40年経過さらにグローバル化進展する今です

十津憲司 (45E卒)



45Eクラス会が7月4日若山さん幹事で開催12名参加でした、白子の海席「たみや」で昼食、卒業以来40年皆さんいよいよ自由な時期を迎えるようになりました。

■感想

- まず無条件に楽しくよいクラス会で幹事さんに感謝です。
- 皆さんいろいろ元気でなによりでした。
- 退職された方、今後も働かれる方まちまちですが時間が経過し皆さんそれなりの風貌で落ち着いた感じでした、名前をお聞きすると昔のイメージが思い出されます。
- いろいろな過去に浸れた良い時間でした。

■現在

- 今地球温暖化が加速している2009年です。
- 宇宙の始まり?ビッグバン後マイクロの世界で生まれ拡大現在までの百数十億年時は経過し今です、人間の寿命もせいぜい90年その後も時は流れます。
- 現在地球では長い時を経たニューロン/ゲノム比(鯨には負けるので少しと思ったのですが)の大きい脳進化の産物人間が道具等手にして色々な連鎖の頂点を極め公喜ひいては地球上の環境まで変えようとし



- ています。
- 一方エレクトロニクス関連は相変わらず進展が加速、微細加工技術ムーアの法則【Moore's Law】が継続しDRAMの価格が'95に比べ1/200以下に急落し物作りまで変わって来そうな雰囲気まで変わってきています、またコビキタスという言葉も当たり前で如何に速く有効な情報をネット等から収集するかが課題でいろいろなツールを使いこなすパラダイムシフトの時代です。
- 『患者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ』by 鉄血宰相ビスマルク

いろいろなグローバル化は技術、生活、趣味を進展させる物と考えています、私の場合動力学(dynamics)のみでなく運動学(kinematics)関連を含む開発だったので最近はそのながれ?でブラシレスモータの制御ばかりで社内ではそれなりに詳しくなりました、技術も素早く理解し更に展開する事が求められる時代と思います。

■将来

現在はいろいろと思ひ有りますが将来も考えていかなければと思います。

コラム② HP「鈴鹿43E談話室」

小林伸生 (43E卒)

去る5月23~24日の43Eクラス会は、第二の人生が始まった事で、新鮮で興味深い話題が多く話は尽きませんでした。そこでこれを機に日常的に情報交換できる43Eの仲間だけのホームページを立ち上げる事になりました。

ホームページは、情報交換を目的とする話題別掲示板と、学生時代の写真、文集、クラス会の写真など思い出のデータを貯蔵するアーカイブスを主体に構成しました。

さすがに昔の結末は失われておらず、ネットを通じて多くの情報をすばやく提供頂き、6月初め(クラス会から2週間後)には完成、運用開始となりました。まだ日は浅いですが滑り出しは好調です。ホームページの雰囲気は写真をご参照ください。以下に、ホームページ作成で配慮したことを簡単にご紹介致します。

■専用ドメイン取得、レンタルサーバー使用

ネット活用の自由度が大幅に拡大します。最近では少しのお金で専用ドメインの取得、レンタルサーバーの使

用が可能になります。

■掲示板を話題別に複数設置

各自の話題は多岐に渡りますので、適切に分けた話題ごとの掲示板を個別に準備しました。

■機能優先のホームページ

見栄えよりも使いやすさを意識しました。仲間のホー





○未来に向けて環境と言いたいのですが、今後の良い時間構築に向け色々考えて本当にいろいろと健康していくのが各自の人生テーマと考えます。



○独りよがりではなく物事をポジティブにとらえる事は重要と思います、時間は非可逆で何もなくても時は流れます[有効な時間をです]

旭化成ケミカルズ(株) 鈴鹿高専OB会

藤井芳則 (55C卒)

ベルシティの東に位置する旭化成ケミカルズ(株) 鈴鹿事業場には昭和47年卒の6期生から平成21年卒の43期生まで44名の鈴鹿高専OBがほぼ全ての部署に在籍しています。学科別では化学17名、電気12名、機械8名、材料5名、情報2名となっています。

7月17日に開催されたOB会には28名の出席者がありました。10年ぶりの開催とあってここ数年に入社された若い方の顔合わせ的な会となりました。特に今年度入社した田堀さん(生物応用科学科)と萩原さん(電気電子工学科)は歓迎会の様で挨拶時にはたくさんの質問を受けていました。多くのOBが現在の鈴鹿高専がどのような雰囲気になっているか関心があるようでした。そして現在の鈴鹿高専が非常に自由闊達な雰囲気の学校であることを聞き、羨ましくもあり嬉しくもありました。また昔の学生生活の懐かしい話に花が咲き和やかな時間が過ごせました。



これからは毎年OB会を開催する事を約束して閉会しました。

来年度入社予定の後輩たちへ盛大に歓迎致します。イヒ!



学科近況



教養教育科の近況 出口 芳孝 (48E卒)

昨年度は、数学の横山先生が定年を待たず退任されました。学生と同じ目の高さで話ができるお人柄や、普段から積極的に学生と対話しようという姿勢などについてはみなさんもよくご存知の通りです。しかしながら、その外見のユニークさに目を奪われて、授業の解説においては、論理展開のステップを必要以上に細かくせず、自分で考えるべき質問には答えられないなど、見識高い先生でもあられたことは意外に知られていないのではないのでしょうか。

先に保健体育の宮崎先生も早期退職されており、他の先生で代えることができない貴重な人材の長所を生かしきれずに、かつては個性に満ち溢れていた我が鈴鹿高専も無難な戦力を求める時代になってしまったのではないかと危惧するのは私だけなのでしょうか。

もう一点、最近危惧されているのは、学生が(更に)勉強しなくなってきたことです。特に中学時代は授業と塾でそこそこの成績をかせぎ、自分で勉強する習慣のないまま入学してくる学生が増えています。初年度教育など色々な局面で対策が検討されており、教養教育科も深くコミットしているのですが、なかなか効果的な方法が見つかりません。

学生の気質もまた大きく変わってきたようです。ひと昔前の「自己中」とはちょっと違う「傍若無人(傍に人無きがごとし)」とでも言えばよいのでしょうか。幼児のように自分にしか関心がなく、自分が傷つけられる痛みには敏感なわり

に、他人に与えている痛みには鈍感、というより分からない。眼前の点数には一喜一憂するのだが、実力を養う地道な努力は厭う。このような幼児化に対して教育も幼稚園化せざるを得ない部分があるのですが、今度は幼稚園化が幼児化を助長してしまう場面も出てきて、なかなか難しい時代になりました。

もうひとつ、新型インフルエンザがらみで悪いニュースです。2年生の韓国研修旅行が中止になることが決まりました。昔、学園紛争の行動開始を九州修学旅行が終わってからにするという先輩たちの配慮で修学旅行をふいにせずすんだことがありましたが、長い歴史のなかで研修旅行がとりやめになったことはなかったのではないのでしょうか。もっとも、多くの高専ではいわゆる修学旅行は既に廃止されており、未だに存続させているが故の「悲報」ではあります。

最後に明るい話題です。高専大会関係の一覧表も掲載されると思いますが、クラブ関係は相変わらず元気です。剣道の細野先生をはじめ、陸上の船越先生、バスケの川本先生、バレーの林先生などなど、教養教育の先生方があいかわらず献身的に取り組んでおられ好成績をあげています。

数学の堀江先生が沼津から戻られ、新たに理科教室に加わられた丹波先生など若い先生方も増え、お世辞ではなく有能かつ意欲的に教養教育に取り組んでおられます。次の機会には若手に関わる嬉しい話を是非詳しくさせて頂きたいと思ひます。

機械工学科の近況 藤松 孝裕 (62M卒)

機械工学科および本校の卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。本年度におきましては、昨年同様のスタッフにて学生指導に取り組んでおります。本年は各先生方に近況・皆様へのメッセージをいただきましたので、紹介させていただきます。

打田: 今年度で退職します。在職中はいろいろとありがとうございました。それと、機械工学科を卒業された方々の更なるご活躍をお祈りします。

埜: 学科長(主任)を2年間務めたあと、今年度から校長補佐として研究主事を担当しています。学科長のときより更に忙しくなりました。産学連携の仕事も守備範囲ですので、

よろしくお祈りします。
佐脇: 本年度の学科長(主任)を務めています。就職・進学指導において、特に昨今の経済状況から就職指導を懸念していましたが、就職希望者の9割が第1希望の企業等に内定してホッとしております。

富岡: 皆さんお元気ですか? 私も残すところ1年半となりました。学科の建物に大きな変化はありませんが、教員は優秀な若手を中心とした方々でひとまず安心です。健康な体が資本なので十分に配慮され頑張られることを祈ります。

末次: 今年は昨年の3Mを持ち上がり、4Mの担任をしております。学生のみなさんも高専祭の展示に向けてがんばって

おりますので、是非お越し下さい。

近藤：今年も電子機械工学専攻主任を務め、相変わらず忙しい毎日です。また、SolidWorks(学内200ライセンス)が情報処理センター演習室でも使用できるようになり、教育環境が良くなっています。

民秋：今年はサッカー部が全国大会に進出し熊本県八代まで引率しました。惜しくも2回戦で、優勝した近大高専に1-2で敗れましたが、来年につながるいい試合でした。

藤松：今年は5年生担任。JABEE受審に関連して大忙し

だった昨年、今年は自己点検書作成担当で... いつゆっくりにできるのか?と期待している今日この頃。

白井：8月末は日本高専学会での発表、電気学会産業応用部門全国大会(三重大学)への機器展示など大忙しのうちに終わりました。今年のロボコンは注目です。意表を衝く秘密兵器が登場する予定ですので楽しみに!

白木原：気付けば赴任3年目も半分が経過。手探りだった高専のリズム・空気に慣れてはきたものの、学生さんに教えてもらうことは未だ数知れず... 学生と共に成長中。

電気電子工学科の近況

今年の最大のニュースは、電気電子工学科棟の耐震工事が8月から始まり来年の3月には改修された建物になることです。校内の建物としては最も古い建物の一つであった電気電子工学科棟もようやく新しくなります。ただし耐震工事にとまなう改修工事ですので、建物そのものが一から新しくなるわけではないのが残念ですが、内部の作りは各所で新しくなり、実験などで使いやすくなるのが期待できます。

次に、今年度で定年を迎えられる先生が2名みえます。科の建物とともに歩まれました伊藤保之先生と平成15年に熊本電波高専から来られました鈴木昭二先生です。伊藤先生は電気電子工学科の生き字引そのもので、何かあると伊藤先生の記憶に頼らせてもらっていました。お二人は来年度も授業など担当していただく予定です。

伊藤保之：昭和40年4月に鈴鹿高専電気工学科に採用され、43年が経ち平成22年3月に定年退官を迎えることになりました。これから1・2年は、週に1~2日勤務することになると思います。母校に来た時には是非、声を掛けて下さい。

鈴木昭二：私は今年度かぎり定年退職となります。熊本電波高専から転勤してきて今年度で7年目になります。鈴鹿高専のある三重県は、のんびりした土地柄であり、良い人が多く、気候も温暖で大変気に入っています。定年後も三重県に家を建てて住むことにしました。定年後は趣味のアマチュア無線をして暮らしたいと思っています。

中野 荘：卒業生の皆様も元気にお越しのことと存じます。現在、私は5年生の担任をさせて頂いております。学生の皆さんと話をすることも多くなり、なかなか楽しいのですが、考え方や意見が、自分の学生の頃とはずいぶん異なり、年の差を考えさせられます。しかし、世間では政権交代もなされ、皆さんのような若い方々が将来の世界を作っていくのだと思うと大いに楽しみです。

奥野正明：卒業生の皆様、お元気に仕事、学業に励んで見ることと思います。昨年からの不況、政治不安、まだまだ続きそうですね。体に気をつけ頑張ってください。私は最近、どうも病気に好かれたようで、2回の長期入院、電気科の先生方に迷惑をかけています。幸い再び復帰でき、今は元気に

北村 登 (47E卒)

第二体育館にも行っています。今、電気科棟が改修中で、機械棟に居候しています。来校のときは、ぜひ寄って下さい。卒業生の今後の活躍を祈っています。

北村 登：今年に入試対策の仕事を担当し、中学生の数が減少している中で、より優秀な、より多くの受験生の確保を目指しています。皆さんの周りの中学生に、高専のPRをお願いします。

花井孝明：鈴鹿高専に赴任して9年目になりました。一昨年から専攻科長として、国際的に通用する技術者の育成を目指した専攻科の運営に努め、昨年度はJABEEの認定継続が認められました。ロボコンも引き続き担当しており、全国大会出場を目標に頑張っています。

近藤一之：8月から電気電子工学科棟の改修工事が始まりました。引っ越しは大変でしたが、荷物の整理や不要ものの廃棄ができたこと、前向きにとらえています。来年度は新しい実験室で、気持ちも新たに再スタートです。現在は8人の教員で1部屋にいますが、この状態も結構、気に入っています。卒業生の皆様もお元気で。

奥田一雄：本年度は学生支援室の仕事を担当しています。テレビゲームや情報過多の時代の影響なのかどうか良く分かりませんが、特に最近では以前の学生対応とは違ったいろいろなタイプの問題が発生しています。難しい問題の対応に日々頭を悩ませながらも学生達と愉快地過ごしています。

川口雅司：早いもので高専に着任して17年が経ちました。今年度は3Eの学級担任および学生主事補、国際交流分科会委員長などの校務を行っています。9月になり電気電子工学科棟の改修工事も本格化してきました。また高専へお越し頂ければと思います。

西村一寛：今年で赴任して4年目を迎え、現在4年生の担任と寮務主事補を任されています。今年は不況にも関わらず多くの学生がインターンシップに参加することができました。これもOBの皆様のご活躍の賜物です。今年は、新型インフルエンザの対応など例年に増して注意が必要なのですが、元気な電気電子工学科の学生と教職員の皆様に支えてもらいながらなんとか過ごしております。鈴鹿高専にお越しの

際は是非お立ち寄り下さい。

柴垣寛治：着任してもう5年がたち、一緒に入学した1年生が卒業していくまでになりました。時間の流れは早いものだと感じます。教育を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。目先の利益にとらわれず、本質を見つめるように努力したいと考えています。

鈴木昌一：今年もソーラーカーレース鈴鹿に参戦しました。当日はあいにくの雨空でスリップによるコースアウトがありましたが自己最高位(総合12位、クラス7位)で完走することがで

電子情報工学科の近況

卒業生の皆様には、いかがお過ごしでしょうか?平成元年に一期生を迎え入れた電子情報工学科も21年目を迎えております。教職員や学生の近況報告などをお伝えいたします。

伊藤八十四先生が退職

本学科で長年電子回路や電気回路論を担当していただいた伊藤八十四先生が、体調不調のため、定年退職を前にして平成21年4月に退職されました。授業や卒研、クラブ活動(ソフトテニス)などでの、温厚で仕事熱心な先生の姿がとても印象に残っております。

浦尾彰先生が着任

伊藤八十四先生の後任には、若い浦尾彰先生(28歳)が10月から赴任されます。浦尾先生は実は本校の卒業生です。平成13年3月に電子情報工学科を卒業すると同時に名古屋大学に編入学し、同大学の博士後期課程を修了して、平成20年4月に近畿大学附属高専へ情報工学関係の教員として赴任されました。そして、今年本校へというわけです。母校での教育研究活動に大いに力を発揮してもらえんと思います。

生物応用化学学科の近況

卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。本年のトピックスとしては、バドミントン競技の全国高専体育大会(8月22、23日)の引率で博多に行ってきました。男子団体および個人戦単・複ともに善戦しましたが、3位までに入賞することはできませんでした。また、9年ぶりに開催されたクラス同窓会では、校内の改修された建物・創立記念モニュメント・実験室などの写真をPowerPointで紹介し、なかなか母校を訪れることができない同窓生に大好評でした。現在、有機化学系の授業科目を担当し、環境にやさしいグリーンケミストリーを指向する合成反応の開発に関する研究テーマで学科・専攻科の卒業研究などを指導しています。

学科所属の教職員の方々から近況報告をいただきましたので

きました。ちなみクラス優勝は、卒業生チームのTeam MAXSPEEDでした。来年も参戦予定ですのでご支援よろしくお願いたします。

山田 太：今年で、いつの間にか17年目。電気電子工学科の建物も耐震改修工事できれいになります。改修に伴う引越しの作業で皆さんとの思い出がたくさん出てきました。来年度からはきれいになった建物で皆さんの思い出と一緒に学生たちがかんばりたいと思います。

齊藤 正美 (43M卒)

技術職員に秦さん

昨年から、技術職員として河野さんにかわり、秦さん(旧姓 永戸さん)を非常勤職員としてお迎えいたしています。秦さんも電子情報工学科の卒業生で、専攻科のJABEE修了生の第一期生にあたります。現在、情報系の実験実習の指導やサーバ機器などの設定などで活躍してもらっています。

今年の進路状況について

今年は世間では厳しい就職戦線ですが、ありがたいことに、本学科の就職希望者は全員が内定通知をもらいました(ほとんどが第一希望の企業から)。進学戦線も順調で、希望者はほぼ全員が希望する大学(大阪大学2名、筑波大学6名合格など)への編入学を果たしました。

各種プログラミングコンテストで学生が活躍

4I 高木くん、鷹野くん、4E 疋田くんが、昨年の高専プログラミングコンテスト競技部門で5位となり、特別賞を獲得しました。また、今年のICPC(国際大学プログラミングコンテスト)においては、4I 高木くん、鷹野くん、矢野くんのチームが国内予選を突破し、アジア地区予選東京大会(11月7日~9日)へ進出することになりました。

長原 滋 (52C卒)

ご紹介させていただきます。

富澤好太郎教授(学科長) 今年が就職の厳しい年でしたが、希望者全員内定が決まり、改めて高専の就職の良さを感じました。私事ですが、早いもので2010年3月で定年を迎えます。大病することもなく、皆さんのおかげで無事に勤められました。4月からは再雇用で本校にお世話になる予定です。

杉山利章教授 米国発のサブプライムローンに伴う世界的な不況、新型の豚インフルエンザA型の蔓延、立直前まですれ込んだ梅雨明けに代表される天候不順、55年体制の崩壊による政権交代などに振り回されることなく、それら乗り越えていく卒業生の皆さんの熱い情熱に期待しています。

内藤幸雄教授 本年度は4名の卒業研究生全員が留年となり、

マイペースの1年間です。自民党政権が崩壊して世の物事が改善されるか、更なる崩壊の始まりかが問題です。卒業生の活躍を期待しています。

岩田政司教授 (50C 卒) 現在、JABEE プログラム責任者を務めています。昨年度は、JABEEの認定継続審査を受け、無事、平成20年度から6年間の認定を得ることができました。大学から来られた3名の審査員全員が本校の教育を高く評価してくれました。

澤田善秋教授 (50C 卒) 赴任後6年目となりますが、相変わらず、学生達と楽しく過ごしています。最近では環境関係のテーマも取り進めており、学外との関係も増えています。機会を作って一度、のぞきにきて下さい。

下野 晃准教授 (58C 卒) 卒業生の皆さんお元気ですか？最近、急に化学式の下付き文字とかがやけに見辛くなってきました。そういえば、白髪も目立ってきましたが、こんな老化現象に負けてはいられません。老いてますます元気にをめざし、学生たちと楽しくふれあっています。

材料工学科の近況

国枝先生：本年3月まで研究主事を仰せ付け、産学連携・研究など学校全体的な仕事も終わり、ほっとしております。研究は、環境を見据えたセラミックスの焼結とか、加熱材昇温材の開発、感染性医療廃棄物の処理などマイクロ波を材料に幅広く適用した研究課題に取り組んでいます。卒業生の諸君のますますの活躍を楽しみにしております。

井上先生 (46H 卒)：4月から寮務主事として毎日、寮事務室と材料工学科の間を歩き来しており、おかげで足腰が強くなったような気がします。また学寮では、無線LANが整備されたり、ウォッシュレットトイレに改修されたり、学生の要望を取り入れて生活環境が良くなってきています。研究面では、マイクロバブル(MB)に関する研究課題に取り組み始めています。是非、学校に足を運んで近況を知らせて下さい。

江崎先生 (52H 卒)：平成21年度より学科長として学科の運営や5年生の進学・就職を担当しております。ご存知のように昨今の経済状況は就職戦線にも大打撃を与えており、就職担当新米の私にとりましては大きな試練となっています。時間がありませんらぜひお立ち寄り頂き、皆さんのお勤め先の情報等を教えて頂ければ助かります。

兼松先生：材料工学科における様々な教育研究活動に加えて、情報処理センター長としても忙しい毎日をご過ごしています。卒業生諸氏におかれましては、是非またお立ち寄りいただき、ご活躍の状況などお聞かせいただければと願っています。

宗内先生：今年度も3年生の熱力学と5年生の授業を担当しています。研究は、自分の専門分野である燃料電池と昨年から始めたオゾンの生成の研究を行っています。燃料電池では、三重県の補助事業に参加して電極関係の研究を行っています。

山本智代准教授 赴任3年目。同じ年にこの学校に入学し3年生になった学生達の担任をしています。球技大会、体育大会ではクラスの応援に走り回り、定期テストでは"いつも以上"に学生達の成績にハラハラ・ドキドキしています。学生達も私も、日々、成長できるよう頑張っています！

高倉克人講師 赴任5年目となる今年度は、4年生の担任を持っております。来年度も製造業への就職状況は依然厳しいと考えられますが、担任の業務を通して、学生の進路支援の一助となれるよう頑張りたいと思います。研究については、新規な両親媒性化合物を合成し、それらが起こす動的挙動について調べております。

淀谷真也講師 赴任7年目になりました。この春から講師になりました。卒研生も4人に増え、大変ですが、にぎやかにやっています。部活は今年も全国への切符を逃しましたが、部員は良い子が揃っているので、なるべく指導に行けるように頑張ります。

黒田 大介 (h05S卒)

何か三重県にも燃料電池で貢献できたらと考えています。鈴鹿に来る前は28年間企業にいたので、会社での困ったことや人間関係の面で問題がありましたら、気楽に遊びに来て下さい。

小林先生：教務主事補、バスケットボール部顧問などを担当しています。昨年度末に体調を崩し、多くの方々に助けていただきながら、何とか教育の仕事には励んでいます。PVD法による耐食皮膜の製造、金属間化合物の単結晶育成などを研究しています。年々頭髪が減少しさらにこの半年ほどで約15kgスマートになりましたが、気持ちは若いとき(?)と変わっていません。近くにいられたら、遊びに来て下さい。

下古谷先生：材料工学科に赴任して17年が経過しようとしています。現在、学生主事補として、また交通部会長として学生指導に微力ながら協力する立場となっております。一方、研究面ではマイクロ波を利用した廃棄系バイオマスの有効利用に関する研究を行っています。最近の学生は、卒業研究の時間以外はほとんど研究室に顔を出さなくなってきており、昔の学生が一生懸命卒業研究に取り組んでいた姿が懐かしく感じる今日この頃です。

南部先生 (h02H 卒)：主研究テーマである、高い水素透過能と耐水素脆性とを兼ね備えた水素透過膜合金の設計開発において、本年3月に開催された金属学会では、研究室の学生2名が優秀ポスター賞を受賞しました。また、本年度だけで5件の特許を申請するなど、昨年度の研究室移転を機に、充実した研究成果が得られております。

和田先生：本年度も、高学年の無機化学、材料物理化学お

よび固体物性の授業を担当しています。研究室では、学生に紫外～赤外の分光分析技術を指導するとともに、磁気分光分析および放射光を用いた分光分析技術も利用して、蛍光体、レーザー発振材料および熱放射材料などへの応用を考えたガラスおよびセラミックスの組成設計に取り組んでいます。

黒田 (h05S 卒)：昨年度から高専機構本部に併任になり、教員とはまた違った視点で高専の素晴らしさを実感しています。今年から4年生の担任をしています。人工衛星用金属材料の解析など、研究分野を拡大しています。

万谷先生：鈴鹿高専に赴任して2年目になりました。本年度、

創造工学を初めて担当しています。また、現在卒業研究生が3名配属されており、研究室のスタイルを模索中です。日々、研究室の環境を整えながら、チタン合金の機能性向上に関する研究に取り組んでいます。

猿渡技術職員：早くも12年目になります。現在は主に学生実験と創造工学を担当しております。体力の衰えを痛感する今日この頃です。

宮崎技術職員 (h14S 卒)：材料工学科各学年の学生実験を担当しています。毎年個性あふれる学生が入学しており、試行錯誤を繰り返して学生実験を行っています。卒業生の皆様、機会がありましたらぜひお立ち寄り下さい。

教育研究支援室の近況

森 邦彦 (58H 卒)



■ドリームカップソーラーカーレース鈴鹿2009

まずは、人事異動をお知らせします。平成20年4月、主にI科業務を15年務めた河野純也技術職員が総務課へ配置換になり、平成20年10月にI科卒業生の秦理恵技術補佐員が採用されました。現在、教育研究支援室には卒業生4人を含む15人が在籍しています。また、平成21年1月1日に校長直轄組織「教育研修支援センター」が発足、宇和川センター長(事務部長兼任)の元に業務を行っています。教育研究支援室は管理棟1階正面玄関横ですので、ご来校の際はお気軽にお立ち寄り下さい。

次に、多様化・高度化する教育研究支援室の業務を通じて卒業生と接する機会も増えていきますので、それらの一部を紹介します。

ソーラーカープロジェクト(技術プロジェクトから)

今年で19年連続出場のドリームカップソーラーカーレース鈴鹿2009は、平成21年7月31日から8月2日に鈴鹿サーキットで行われました。成績は、周回数=57周、総合=12位、チャレンジクラス=7位。あいにくの雨天だったため目標の80周には届きませんでした。周回数は自己4位、総合順位、クラス順位共に自己最高位の優秀な成績であり、学生はものづくり、マネージメント、安全性などを実践的に学ぶ貴重な機会を得たと共に今後の自信に繋がったものと思

います。尚、2011年の大幅なレギュレーション変更に対応するため、ものづくり技術者教育プロジェクト、及び環境(エコ)教育プロジェクトの一貫として新しい4輪車両の設計、製作に着手していますので、卒業生の皆様の一層のご支援、ご声援を賜りますようよろしくお願いいたします。

また、今年のレースにおいて卒業生が所属する社会人チームTeam MAXSPEEDは、周回数=65周、総合=3位、チャレンジクラス=優勝の栄冠に輝きましたことをここに報告し、皆様と一緒にその活躍を賞賛し、喜びを分かち合いたいと思います。

中小企業人材育成事業(産学官連携・地域連携から)

平成18年度から20年度に実施された経済産業の委託事業「高専等を活用した中小企業人材育成事業」が、今年度から鈴鹿商工会議所主催、鈴鹿市うごく支援室と本校共催の自立化事業「ものづくり人材リーダー研修技術編」として、平成21年8月8日から11月28日まで計7日間(14コマ)開催され、教育研究支援室は教員と共にこれに参画しています。今年のセミナーには、鈴鹿市近隣の企業に勤める卒業生(現役技術者)が企業研修の講師として、また2名のM科卒業生が受講生として参加しています。まもなく50周年を迎える本校において、年代を超えた卒業生同士、及び卒業生と教職員が互いに学び、交流できる新たな機会になっています。



ものづくり人材リーダー研修技術編(FMEA研修)

退職教職員

「鈴風」より転載

振り返ると感謝ばかり

教養教育科
横山 定晴



バス停を降りるとにぎやかでした。大東紡織（現在戸建て住宅やマンション）の塀沿いにすこし歩いて、本校宿舎の入り口付近に、女性社員のくつろいだ声が湯気と一緒に立ちのぼっていました。その右手（現在住宅街）の少し向こうを見ると背丈以上のスキの原っぱが広がっていて、真中に幅1mほどの踏み分け道、なんとそれが高専の学生通路でした。

本校の入り口の楠は大きくなったと感心させられます。入り口の桜は狂い咲きをします。二十年以上も前でしょうか、見事に狂い咲きました。卒業間近の学生が来年四月に花をつけるかどうか知らせてほしいというのを安請け合いましたのが少し気になります。

本校の塀に沿って植えられている櫛はあまり元気がありません。本校は旧海軍の飛行場跡にできてい

るそうですから、下にそのときのアスファルトが残っているのではないかと心配です。食堂のまへの櫛にはこれでもかというほど空蟬が残っております。蟬は七年も地中にいるそうですが二年前の卒業生の顔を思い出しながら櫛を見上げるのも楽しいものです。図書館の脇を抜けると実習工場のキューボラに当たります。最初のころ数度煙を吐いているところを見たことがあるだけです。時代の変化の表れでしょうか。

そういえば、電通学園も大東紡織ももうありません。けれども全寮制の廃止、専攻科設置、国立から法人化、たくましく変化を遂げてきた本校の入り口のあの桜が何度も満開になることを確信しています。

心をあらたに

学生課
山中 保



昭和49年4月に採用になり、機械工学科から始まって、庶務課、会計課、学生課と全ての課にわたり34年間、お世話になりました。無事に勤めてこれましたのは、ひとえに教職員の皆様の温かい励ましがあつたからだ、心から感謝致しております。

現在は図書館で仕事をさせていただいております。毎日、学生の皆さんと接していて、一生懸命に勉強する姿を目にしますと、こちら心新たに次第です。非常勤の学生の皆さんにも図書館の仕事を手伝ってもらっておりますが、みなさんしっかりして感心しております。また、図書館には10万冊

もの蔵書が有ります。専門書も充実しておりますが、一般書の方も優れた本がありますので、是非ご利用ください。学生の方が深い教養と専門的知識を身につけて社会に出て活躍されることを願っております。

私はこれからのことはゆっくりと考えて第二の人生のスタートを切りたいと考えております。

最後となりましたが、鈴鹿高専の更なる発展と学生、教職員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

ご存知の方、ご一報お願いします

会員の皆様には、秋の候、ご清栄のととおよろこび申し上げます。

鈴鹿高専は平成24年4月に創立50周年の節目を迎えます。現在その時を遠望しながら、創立50周年記念誌の編集をすすめています。今回は学生、保護者、教職員について、各種役員等のお名前の網羅的掲載を編集の柱にしていますが、古い事柄では資料も散逸し、確認しきれない箇所もでてきています。下記の特別賞受賞者、後援会役員、学生会役員の名簿がその一例で、★印の箇所該当される諸兄のお名前がわかりません。会員の皆様のなかで、ご当人、お心当たり、ご存知の方もおいでと存じます。空白を埋めるため、ぜひご一報下さいますようお願い申し上げます。

〒510-0294 鈴鹿市白子町 鈴鹿高専 記念誌編集部(松林)
✉ matsu@genl.suzuka-ct.ac.jp

卒業式学生表彰(特別賞、畠山賞)

年	回数	特別賞						畠山賞
41年	第1回	なし						
42	2	なし						西川淳二
43	3	★	★					★
44	4	桐本幸一	尾川源太郎					渡辺裕司
45	5	江越修次郎	本郷政人					浦口治朗
46	6	鈴木正人	部 和司	野口良雄	松井 修			部 和司
47	7	佐藤善則	伊藤栄一	中尾 斉				藤田 誠
48	8	小田和哉	大鷹昌司	小野忠久	飯野 彰	西村精一	加藤輝芳	猪飼 勇

教育後援会役員

年	会長	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長
昭37	1M 榎尾清太郎	1M 大井順治	1E 藤田雄二	—	—	—
38	2M 大井順治	2E 藤田雄二	1C 徳屋 実	—	—	—
39	3M 大井順治	3E 藤田雄二	2C 徳屋 実	—	—	—
40	4M 大井順治	4E 藤田雄二	3C 徳屋 実	—	—	—
41	5M 大井順治	5E 藤田雄二	4C 徳屋 実	3E 西川寛一	2M 金津浅治郎	1H 伊藤辰郎
42	5C 徳屋 実	★	★	金津浅治郎	伊藤辰郎	土性助雄
43	佐々木亮一	百々鈴俊	金津浅治郎	伊藤辰郎	土性助雄	清水安次郎
44	金津浅治郎	三上久明	伊藤辰郎	土性助雄	清水安次郎	服部 清

学生会役員

暦年	会長	副会長	初期	会計	会計	評議会議長	広報委員長	高専祭実行委員
37								
38	2C 藤井和雄	2E 宮本 登	2M 白木恒朋	2E 金沢昌一	1M 大野 健			
39	3E 加藤雄二	2M 山田勇夫	3C 藤井和雄	3E 山口哲成	2M 大野 健			★
40	4C 坂本宗男	3M 山田勇夫	3C 清水啓吾	3E 長屋恒彦	2M 中井一久男			3C 山田勇夫
41	5C 坂本宗男	4C 宮本 明	3M 増田信義	4M 岩田光磨	2E 尾川源太郎			★
42	5E 小島昌美	4M 山本伸雄	4C 島田博司	4C 桐生年郎	3C 浅野賢司		4E 川原 茂	5E 井ノ口迪夫
43	5C 桐生年郎	4C 加藤 充	4M 大野 治	4C 浅野賢司	3C 鈴木和富		4M 大野 治	5C 桐生年郎
後期	4E 岡山克己	3M 本田正人	4C 小柳清子	4C 浅野賢司	4M 鈴木 学			★
44	★	★	★	4E 新田光生	3E 北西亮一		4C 中村博次	4M 本田正人
後期	3E 中谷幸弘	★	★	★	★			★
45	5E 江越修次郎	★	★	★	★			5M 四十山義則
46	5M 鈴木正人	4E 伊藤栄一	3C 林 仁司	5H 甲神秀文	4M 杉原克之			5H 吉岡文孝
47	5M 佐藤善則	5E 伊藤栄一	5M 稻森達雄	5H 前谷昌孝	4M 井野口和彦	5M 吉田安男	5C 鳥居信吾	5E 伊藤栄一
48	5M 大鷹昌司	★	★	★	★	★	★	★
49	5E 傘 常吉	5M 長谷川恵一	4C 小松和義	4H 伊藤真弘	3M 尾崎弘行	5C 篠田吾郎	4M 松田義弘	5M 川口宗弘



SHTNに参加してみませんか

鈴鹿高専ヒューマン&テクノロジーネットワーク (SHTN) 第10回総会・第19回技術交流会が下記のように開催されます。今回は、今年度退職される先生方にお話を頂くことができるようになりました。卒業生の皆様におかれましては、このような機会にお出かけくださり、懐かしい話でもしてみたいはいかがでしょうか？

日時 2009年 **11/14** **土** 場所 **鈴鹿高専 マルチメディア棟 [視聴覚室]**
 13:30 ~ 18:30 **参加費 無料**

プログラム	
13:00 ~	受付
13:30 ~	第10回総会
14:00 ~	第19回技術交流会
	■エコに関する講演：本校教員1件、企業卒業生3件を予定
	■今年度退職教員による講演：高専生活を振り返った5~10分程度の講演を予定
	■講演予定教員：E-鈴木、伊藤(保)、S-国枝
17:00 ~ 18:30	懇親会(第2会議室) 懇親会費は2,000円

参加申込み

メールにて 卒業年度、氏名、勤務先、メールアドレス、電話番号、懇親会出欠の有無をご記入ください。

送付先は ▶ fujimatu@mech.suzuka-ct.ac.jp (学内世話役：62M 藤松)

平成20年度会計報告

収入の部

摘要	金額(円)
平成19年度からの繰越金	44,251,374
平成20年新入会費(219名)	2,409,000
預金利息	98,414
合計	46,758,788

支出の部

摘要	金額(円)
会報発行経費	781,921
事務費	278,572
次年度へ繰越金	45,698,295
合計	46,758,788

編集後記



今年は電気電子工学科棟の改修工事のため、編集に取りかかるのが例年より遅くなり、早くから原稿をいただきながら発行が遅くなりましたことを先ずはお詫び申し上げます。初期の卒業生の方々が定年を迎えられるようになり、新たなスタートをきられる時期になっており、いろいろなお話を聞かせていただける機会も増えております。鈴鹿高専も50周年を迎え、同窓会活動も新たな局面に入ると思っていますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

北村(47E卒)

誌名

青峰同窓会会報

発行日

2009年10月

発行

国立鈴鹿工業高等専門学校
 青峰同窓会 広報委員会
 〒510-0294 鈴鹿市白子町
 ☎ 059-386-1031

E-mail: almn@suzuka-ct.ac.jp

ホームページアドレス

<http://www.suzuka-ct.ac.jp/~almn/>